

岡倉天心 (おかくら・てんしん) 1863~1913

美術思想家・美術運動指導者・教育家 ~情熱と行動の理想主義者~

出生 文久2年12月26日(1863年)、武蔵国久良岐郡横浜村本町5丁目(現・横浜市中区本町1丁目)に岡倉勘右衛門の二男として生まれる。父は元福井藩士で藩命により生糸貿易商石川屋を営んでいた。幼名は角蔵(覚蔵)のち覚三と改めた。

履歴 1877年、新設の東京大学文学部第1期生となり、在学中米国人教授フェノロサに哲学を学ぶ。卒業後、文部省に入り、フェノロサの日本美術研究に協力。さらに東京美術学校(現・東京芸術大学)開設に携わり、1890年には28歳で同校校長に就任した。1898年、天心の反対派による校長排斥運動が起こり(美術学校騒動)校長を辞任、天心を支持して同時に辞職した橋本雅邦・横山大観・下村観山ら17人と在野の団体・日本美術院を創立する。その後、日本美術院の運動が次第に行き詰まる中、インドやアメリカなどに渡り、英文著作の発表、ボストン美術館の東洋部長を務めるなど、海外に活動の場を広げた。国内では、国画玉成会を結成し(1907)東京帝大で「泰東巧芸史」を講じた(1910)。

事績 東京美術学校校長として日本の美術教育の基礎を築くとともに、自ら日本美術史の講義も行い、また高橋健三と美術誌『國華』を創刊する(1889)など、日本及び東洋美術の研究と普及に尽力した。日本美術院は当初「朦朧派」と貶められるが、天心の死後再興され日本画壇の主流となった。さらに、東洋の立場の主張、日本文化への考察などを英文著作で展開し、思想家としても内外に影響を与えた。
評価 日本の近代美術史に残した偉大な業績はゆるぎないものがある。思想家としては、独創的で発信力に富むが、必ずしも体系的ではなく全体像がつかみにくい。その反西欧的・アジア主義的主張が、戦争期に大東亜共栄圏の理念として利用され、逆に戦後はそのために忌避された時期もあったように、評価が一定しないが、明治という時代を生き抜いた強烈な個性の記録であることはまちがいない。

代表作

『東洋の理想』 “The Ideals of the East with special reference to the art of Japan”の翻訳。インドの仏教や中国の倫理思想が日本の芸術・文化の歴史に総合されていることを文明的に論じ、侵略的な西洋近代文明に対する東洋的理想の復興と日本の使命を説く。全集1に収録。

『日本の覚醒』 “The awakening of Japan”の翻訳。日露戦争中に書かれた著作で、江戸時代から幕末明治の歴史を論じ、明治維新の意義、日本の平和主義、日清・日露戦争の自衛的性格等を主張する。「白禍」と題された章では、西欧帝国主義のアジア侵略を批判している。全集1に収録。

『茶の本』 “The book of tea”の翻訳。西洋人の東洋への無理解から筆を起し、東洋の茶の文化、日本の茶道を紹介する。広範な内容を簡潔に記した名著とされ、英語以外にも訳されて世界的に読まれている。全集1に収録。

キーワード アジアは一つ 『東洋の理想』冒頭のことば。本来は天心の文明論的な認識だったが、後に単独でアジア主義の主張としてつかわれるようになり、大東亜共栄圏の標語にもなった。

レピート 横山大観の名作「屈原」(1898)は、美校を追われた天心を表しているともいわれる。

神奈川 幼少期を過ごした横浜では、ヘボン塾、高島学校で外国人から英語を学び、神奈川の長延寺住職からは漢籍の手ほどきを受けた。開化期の横浜が英語の達人・天心を生んだ。

最期 1913年(大正2)9月2日、腎臓病から尿毒症を併発し、新潟県赤倉の別荘で死去。享年50歳。



Great Works 09

岡倉天心全集 全9巻 平凡社 1979年~1981年 <708/56>

解題 天心の全集は、没後の大正期に日本美術院から刊行された『天心全集』3巻をはじめ、昭和の戦前・戦中に聖文閣、六藝社、創元社(2冊で中止)からも出版されている。本全集は、その後の研究を踏まえ、著作のほか講演・談話・草稿・日記・ノート・書簡などを可能な限り集め、多数の英文資料はすべて新たに日本語訳している。書誌的考証も詳細で、決定版といえる本格的全集である。

内容

- 1 東洋の理想 [John Murray 1903年 佐伯彰一訳] 東洋の覚醒 [未刊行の自筆草稿 1902年頃 桶谷秀昭訳] 日本の覚醒 [Century 1904年 橋川文三訳] 茶の本 [Fox Duffield 1906年 桶谷秀昭訳] 白

狐 [1913年に完成した未刊行の英文戯曲。天心最後の作品 木下順二訳] 他
 2 = 評論・講演 [英文の評論・講演記録・意見書等を和訳して収録] 日本絵画史図説 [1897~98年] 絵画における近代の問題 [1904年] 孔子の時代と老子の時代 [自筆草稿] 国宝帖解説 [1910年] 他
 3 = 評論・講演・談話・意見書 [和文で発表・記録されたものを収録] 書八美術ナラスノ論ヲ読ム [1882年 最初の論文] 丸山応挙 [1889年 『国華』創刊号に発表] 噫菱田春草君 [1911年 春草の死を悼む談話] 日本美術院創設の趣旨 [1898年] 他
 4 = 美術史 [講義筆記録] 日本美術史 泰西美術史 [以上2つは東京美術学校での講義を学生のノートから活字化] 泰東巧芸史 [1910年 東京帝大での講義] 他
 5 = 日記・旅行日誌 雪泥痕 [1890~91年] 支那旅行日記 [1893年] 支那旅行日誌 [1906~07年] 九州・支那旅行日誌 [1912年] 欧州視察日誌 [1887年] 欧州旅行日誌 [1908年] 他
 6 = 書簡 [1880年から1909年までの天心の書簡415通。英文書簡は和訳して掲載]
 7 = 書簡・漢詩 [1910年から1913年までの天心の書簡282通。天心作の漢詩、歌謡、英詩等]
 8 古社寺調査手録 ノ ト 雑纂 翻訳
 別巻 合評・総評 雑録 資料 岡倉天心あて書簡 追悼記 補遺 年譜 系図 全集総目次

参考文献 ~この人をもっと知るために~

< 図書 >

- 📖 岡倉天心との出会い / 堀岡弥寿子著
近代文芸社 2000年 144p <289.1KK / 4061> 資料番号 21356274
- 📖 岡倉天心アルバム (五浦美術叢書) / 中村愿編
中央公論美術出版 2000年 219p <289.1KK / 4029> 資料番号 21340948
- 📖 祖父岡倉天心 (五浦美術叢書) / 岡倉古志郎著
中央公論美術出版 1999年 246p <289.1HH / 3784> 資料番号 21196415
- 📖 岡倉天心をめぐる人びと (五浦美術叢書) / 岡倉一雄著
中央公論美術出版 1998年 241p <289.1GG / 3676> 資料番号 21070131
- 📖 岡倉天心の思想探訪 迷走するアジア主義 / 坪内隆彦著
勁草書房 1998年 241,7p <289.1GG / 3645> 資料番号 21047204
- 📖 岡倉天心 / 大久保喬樹著
小沢書店 1987年 329p <702.16 / 36> 資料番号 12629457
- 📖 岡倉天心 (朝日選書 274) / 大岡信著
朝日新聞社 1985年 339p <702.16 / 31> 資料番号 12629408
- 📖 岡倉天心その内なる敵 / 松本清張著
新潮社 1984年 261p <702.16 / 30> 資料番号 12629390
- 📖 岡倉天心 - アジア文化宣揚の先駆者 - / 堀岡弥寿子著
吉川弘文館 1974年 231,8p <702.8 / 27> 資料番号 11662954
- 📖 岡倉天心 (紀伊国屋新書) / 木下長宏著
紀伊国屋書店 1973年 213p <702.8 / 20> 資料番号 11662889
- 📖 父岡倉天心 / 岡倉一雄著
中央公論社 1971年 289p <702.16 / 11> 資料番号 11660339
- 📖 天心とその書簡 / 下村英時編
日研出版 1964年 641p <702.16 / 5> 常置 資料番号 11660271
- 📖 岡倉天心 (日本美術史叢書 8) / 宮川寅雄著
東京大学出版会 1956年 260p <702.16 / 3> 資料番号 11660248
- 📖 天心岡倉覚三 / 清見陸郎著
筑摩書房 1945年 370p <702.1 / 63> 資料番号 11658689

< 図書 (部分) >

- 📖 岡倉天心と横浜 / 青木茂著 (神奈川県美術風土記 幕末明治拾遺篇)
神奈川県立近代美術館 1974年 p1-38 <K70 / 2 / 4> 常置 資料番号 50433671

< 雑誌論文 >

- 📖 若き日の岡倉天心 / 隈本謙次郎著
美術研究 (吉川弘文館) 258 [1969.3] <Z705 / 8>